

出張医学教育FD (長野市民病院)

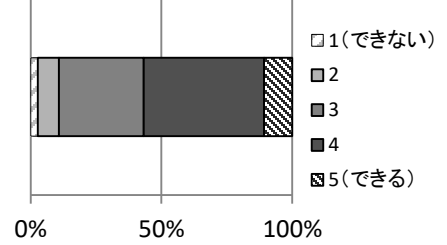
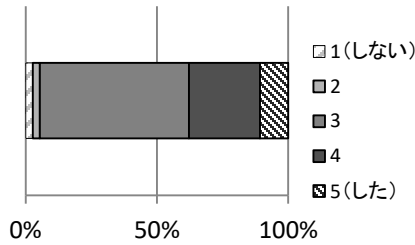
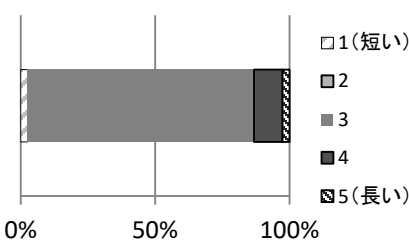
【日 時】令和元年 11月11日(月)

【参加人数】58名

【講師】森 淳一郎

【内容】参加型臨床実習のすすめ方

FDの開催時間はいかがでしたか。 FDはニーズにマッチしましたか。 学生の評価ができるようになりますか。



参加者の意見

FDでわかったこと	FDで疑問に残ったこと	ご意見
学生に任務をちゃんと与えること。 適宜フィードバックを加えること。	行動レポートの書式、内容についての伝え方(書き方)	昨年よりわかりやすかったです。
実習で任務を与える 終了時に評価 ポートフォリオ	評価表を「正直に記載してよい」とおっしゃっていましたが正直にかくことで厳しい評価となってしまうことによる学生の不利益について、個人的には、留年までしてしまうかと思うと、正直に書きづらいと思うことがあります。	実際は理想程深く関わらせてあげられていません。もっと社会(患者側)の理解が得られる政策が望まれます。
学生にも任務を与える。 指導したら評価する。	学生の書くレポート、ポートフォリオの評価軸について	初学者、見習いの身分の者は、しかるべき先輩(指導者)にマンツーマンで貼りついて学ぶのが一番良いかな、と思っています。
薬剤や造影剤の説明・同意書を取ることができること。	このような内容は学生には、あらかじめつたえてあるのでしょうか?担当患者のカルテを全く書けない学生がいて、少しおどろきました。	この3~4年間 学生と話したことがありません。
学習レポート	学生に使う時間の作り方	
日々の評価、アドバイスが足りていないことを自覚しています。	実習に来た学生に、どこまでの手技をやらせて良いか。休日・時間外の業務にも参加させるべきか否か。	
学生に今まで以上に診療に参加させて良い事が理解できました。		
学生には「任務」を与えること しかるべき「評価」が与えられるべき		
カルテの記載、説明ができる。		
実習期間の途中でも時々本人にコメントすること。		
すべき研修がなんとなく判ったが実質的な仕事に関しては教える方もskillupの時間が必要?		
はじめの自己紹介		
臨床実習において医学生が学ぶべき点		
フィードバックの重要性		
学生への対応(病棟業務などにおいて)		
学生の評価のしかた(できるかどうかは別として)		
指導のポイントについて		
現在の医学生の教育が細かく、実践的に考えられているという事 実際に学生と接する事はない立場なので、大変そうだなあの一言です。		
学生がより診療に関わるようにする必要がある。		
医学教育の現状について。		
学生の各週毎のフィードバック		